

科目名	授業形態	単位数	担当教員名
保育内容・環境 II	演習	1単位	阪上節子
<p>【ディプロマポリシーとの関連】</p> <p>&lt;認知的領域(知識・理解・思考・判断)&gt;</p> <p>4. 自ら設定した課題について、保育学・教育学・心理学・社会学などの研究方法を用いて考察することができる。</p>			
<p>【授業のテーマ及び到達目標】</p> <p>環境指導法 I に続き、領域「環境」のねらいと内容についての理解し、保育現場で実践していくために自然の中から幼児の興味・関心を引き出すことのできる素材を見つけ、子どもに「科学的・知的好奇心的なものの見方や考え方」の素地を形成させることのできる指導法の習得を目指す。</p> <p>「科学的・知的好奇心的なものの見方や考え方」を育成するための援助・指導法を中心テーマとする。子どもに「環境にかかわる力」をどのように習得させるかについて幼小接続を視野にいれながら、他領域との総合的保育活動としての実践を取り上げて学ぶ。</p>			
<p>【授業の概要】</p> <p>幼稚園教育要領「環境」のねらいを着実に保育現場で実践していくため、領域「環境」の実践力を高め、幼児に「科学的・知的好奇心的なものの見方や考え方」の指導を行うことができる知識・技術・指導法の習得を行う。さらに他領域と併せた総合的保育活動へ発展させていくことと、幼小接続まで視野に入れた指導ができるよう、保育現場での活動がその後の学齢期にどのような活動に結びついていくのかを考えながら、様々な教材開発・指導法開発を行い、卒後も研究を続けられる素地をつくる。</p>			
<p>【全体の授業計画・内容】</p>			
<p>第 1回 ガイダンス</p> <p>秋の自然を取り入れて遊ぶための指導法を学ぶ。・木の実の活動、教材開発</p> <p>事前学修課題:PP108~109 シラバスを熟読し、関係した記事を読む【0.5 時間】</p> <p>事後学修課題:授業のまとめ理解【0.5 時間】</p>			
<p>第 2回 命を感じる ①生態系を理解する。</p> <p>事前学修課題:PP114~116 動植物の生態について熟読し、まとめておく【0.5 時間】</p> <p>事後学修課題:授業のまとめ理解【0.5 時間】</p>			
<p>第 3回 命を感じる ②命への興味を大切に保育を学ぶ。</p> <p>事前学修課題:大型哺乳類について調べてまとめておく【0.5 時間】</p> <p>事後学修課題:授業のまとめ理解【0.5 時間】</p>			
<p>第 4回 「食と農」の教育とは①小学校生活科との接続を視野にいれて野菜を教材化する。</p> <p>事前学修課題:PP184~18 熟読し保育との接続を理解しておく【0.5 時間】</p> <p>事後学修課題:授業のまとめ理解【0.5 時間】</p>			
<p>第 5回 子どもの好奇心を育てる保育について。(空気・風を感じる教材開発)</p> <p>事前学修課題:PP140~146 空気・風はなぜ子どもの好奇心を育てる題材なのか考えておく【1.00 時間】</p> <p>事後学習課題:授業のまとめ理解【0.5 時間】</p>			
<p>第 6回 子どもの好奇心を育てる保育について。科学する心を育てる。</p> <p>事前学修課題:空気・風 科学する育ちの観点を理解しておく【0.5 時間】</p> <p>事後学修課題:授業のまとめ理解【0.5 時間】</p>			
<p>第 7回 領域「環境」の実践力をいかに高めていくか。①数への関わり方を学ぶ。</p> <p>事前学修課題:数と関連のある遊びを考え、まとめておく【0.5 時間】</p>			

事後学修課題: 授業のまとめ理解 【0.5 時間】
第 8回 領域「環境」の実践力をいかに高めていくか。②図形への関わり方を学ぶ・・・四角。 事前学修課題: 図形と関連のある遊びを考え、まとめておく 【0.5 時間】 事後学修課題: 授業のまとめ理解 【0.5 時間】
第 9回 領域「環境」の実践力をいかに高めていくか。③図形への関わり方を学ぶ・・・円。 事前学修課題: 円と関連のある遊びを考え、まとめておく 【0.5 時間】 事後学修課題: 授業のまとめ理解 【0.5 時間】
第10回 ものや道具を使ってさまざまな表現を楽しむ指導法を学ぶ。 事前学修課題: PP96～99 教科書を熟読し、理解しておく 【0.5 時間】 事後学修課題: 授業のまとめ理解 【0.5 時間】
第11回 日常の保育活動の中で法則性や因果関係に気づかせるためにはどうしたらよいか。 事前学修課題: PP100～102 法則性や因果関係を捉えるとは何か熟読し理解しておく【0.5 時間】 事後学修課題: 授業のまとめ理解 【0.5 時間】
第12回 冬の自然を取り入れて遊ぶための指導法を学ぶ。水の三態(氷・水・水蒸気) 事前学修課題: PP56～57 水の三態の変化を遊びを通して理解しておく 【0.5 時間】 事後学修課題: 授業のまとめ理解 【0.5 時間】
第13回 園外施設の利用と事後の活用のための教材開発。 事前学修課題: 公共施設にはどんな場所があるかまとめておく【0.5 時間】 事後学修課題: 授業のまとめ理解 【0.5 時間】
第14回 小学校教育への接続。 事前学修課題: PP156～163 なぜ必要であるか熟読理解しておく 【1.00 時間】 事後学修課題: 授業のまとめ理解 【0.5 時間】
第15回 試験及びまとめ
評価方法 以下の3項目を総合的に評価して成績を判定する。①定時試験の得点70%
【学習のあり方】 ・アクティブ・ラーニングやワークをします。
【成績評価】 I .授業態度、30% 提出物、70%
【課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法】 レポートや提出物にはコメントを記入して返却する。
【テキスト】 近藤幹生監修 『保育内容 環境』 徳安敦、瀧川光治、杉浦広幸、青踏社
【参考文献】 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書、幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説書
【実務経験の有無】 有 保育現場で環境を通しての保育を実践し、総合的保育活動へと発展させる保育内容で幼児教育を実施してきた。また他大学において、環境 I の授業を担当している。授業では、実際の保育現場の子どもの姿や保育者の関わり方等の映像を見る。また、学生が直接体験をすることで、実践と理論を融合した授業は、確かな学びとなり、保育実習園では子どもを観察する視点が変わり、目的を持っての保育実習に取り組むことが出来ている。保育内容「環境」は保育現場に出た時を想定し、即戦力として保育に役に立つ授業内容にしている。